令和４年度　研究構想図

社会状況（学習指導要領総説）

〇生産年齢人口の減少
〇グローバル化の進展
〇社会構造や雇用環境の変化
〇人工知能（AI）の飛躍的な進化
→主体的　自らの可能性を発揮
　よりよい社会と幸福な人生の創り手

【学校の教育目標】
◎ よく考え進んで学ぶ子
◎ 思いやりのある子
◎ 明るく元気な子

東京都の教育目標

（東京都教育ビジョン第４次より一部抜粋）

〇全ての児童・生徒に確かな学力を育む教育
〇社会の持続的な発展を牽引する力を伸ばす教育
〇グローバルに活躍する人材を育成する教育
〇夢と志をもち、可能性に挑戦しようとする力を育む教育

児童の実態

・教師からの指示に素直に応じる児童が多い。
・興味、関心のあることに積極的に取り組むことができる。
・基礎、基本の定着が不十分な児童がいる。
・自分の考えや思いを表現できない児童がいる。

目指す児童像

主体的に学ぶことを通し、確かな学力を身に付ける児童

研究主題

主体的に問題解決に取り組む杉二の子の育成

研究仮説

国語・算数・理科・生活科において、教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら学習への見通しをもち、振り返りを通して学びの調整をすることで主体的に問題解決に取り組めば、確かな学力を身に付けることができるであろう。

「研究の視点①」
見通しをもった学び

「具体的な手立て」

・教科の特質を踏まえた教材との出会わせ方の工夫
・学習計画及び予想など、児童が自ら見通しを立てる場面の設定

「研究の視点②」
対話的な活動

「具体的な手立て」

・一人一人が自分の考えをもち、他者と考えを共有する場面の設定（個人・ペア・全体）
・子供同士の協働や教師との対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面の設定
・板書等で子供の学びを充実させる指導の工夫

「研究の視点③」
学びの振り返り

「具体的な手立て」

・学んだことを振り返る場面の設定
・自己の学び方を振り返り次の学習に繋げる場面の設定